

趣 旨

この町に住み、轟音と強い炎、時には大きな煙を吐いて垂直に打上がる重量 300 トンから 500 トンものロケットを見て、多くの人は子供も含め感激すると思う。しかし、宇宙を大学等で勉強しようと思うと、もしくは宇宙でなくとも最先端のことを学ぼうとする、島内に高等教育機関はなく島外に下宿するしかない。さらに近年高額になった授業料を考えると高等教育を受ける閾は高い。このため、宇宙を夢みてロケット開発等に従事してきた人、宇宙開発に賛同する人等の個人からの寄付を集め、南種子町の将来のため子供たちの奨学金の補助とすることを考えた。

ロケット開発と言っても、ロケット本体の構造や、液体エンジンを含む推進系、固体モータ、フェアリング、慣性誘導装置、姿勢制御エンジン、分離用火工品等々があり、さらにロケットを打上げる射点設備やロケットを追尾する射場設備、気象予報装置さらには飛行解析、飛行安全装置もあり、非常に多岐にわたる分野に多くの人がそれらの開発を行い、また運用・保全に従事して熟成させてきた。既に会社からの奨学資金寄付は、鹿児島相互信用金庫と南種子町で扱うことで取り決めができています。ただ、宇宙開発への熱意を考えると会社としての思いより、宇宙開発に参加してきた個々人の宇宙への熱意はより高いと思われる。そこで個人の寄付は少額であるものの、ロケット開発に従事してきたこのような思いの人間が大勢いることを考え、個人の寄付を組織の垣根を越えて幅広く、かつ時の流れを越えて将来にも永続することを願い、この思いを碑に残し、実行することとした。

令和 7 年 6 月吉日

『ロケットを見守る碑』を建てて 坂爪 則夫

なお、この石碑建設と奨学金寄贈システムの構築には南種子町役場の方々のご協力、及び現地での折衝等では遠隔地に住む私の代わりに JAXA OB の山田拾馬さんの献身的なご尽力をいただき完成させることができたことを記しておきます。また、石碑の文字は、南種子の書道教室の生徒さんの筆によるものです。石彩工芸の林洋司さんには、契約の仕事以上に石探しから始まり最期に岳之田で見つけていただき、またロケットの形象の彫刻法も見出していただきました。ありがとうございました。